

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月14日

【四半期会計期間】 第57期第2四半期(自平成28年7月1日至平成28年9月30日)

【会社名】 鈴茂器工株式会社

【英訳名】 Suzumo Machinery Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小根田育治

【本店の所在の場所】 東京都練馬区豊玉北二丁目23番2号

【電話番号】 03(3993)1371

【事務連絡者氏名】 総務部長 志賀 融

【最寄りの連絡場所】 東京都練馬区豊玉北二丁目23番2号

【電話番号】 03(3993)1371

【事務連絡者氏名】 総務部長 志賀 融

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第2四半期 連結累計期間	第57期 第2四半期 連結累計期間	第56期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	4,174,425	4,679,139	8,377,350
経常利益 (千円)	564,363	682,861	1,282,524
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	343,098	311,859	779,842
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	340,699	292,403	778,891
純資産額 (千円)	8,239,403	8,878,925	8,677,531
総資産額 (千円)	9,794,526	10,839,239	10,407,770
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	56.64	51.48	128.74
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	84.1	81.9	83.4
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	508,984	715,119	992,868
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△172,175	△6,660	△529,042
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△104,130	△104,679	△116,931
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	3,715,707	4,414,828	3,840,174

回次	第56期 第2四半期 連結会計期間	第57期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	26.80	33.18

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、内外需とも力強さを欠く状況が続いており、景気は足踏みが長期化しております。内需では個人消費の回復は依然弱く、外需では世界的な景気の減速や円高の影響を踏まえると、当面はマインドや企業収益の悪化などを通じて、下振れしやすい状況となっております。

外食産業につきましては、個人消費の低迷や夏場の天候不順により全体的な売上は横這いとなる一方、人手不足は慢性化しており、引き続き厳しい状況が続いております。

このような情勢の中、当社グループとしては、お客様にとって満足度が高く、いち早くご相談・ご用命いただける会社として「ファーストコールマシナリー」になること、そして「信頼され、信頼に応えられる企業」を目指し、高付加価値製品の開発や、更なる販売体制の強化を行ってまいりました。

販売状況につきましては、主力製品である店舗向け小型ロボットや大型機をベースに、お客様のニーズに沿った営業活動を展開してまいりました。その一環といたしまして、国内では、当社独自の展示会「スズモフェア」を計画通り開催いたしました。海外につきましては、寿司文化の浸透を世界に働きかけるため、大規模な国際展示会に参加するとともに海外販売店との円滑な展開を収めました。

子会社では、株式会社セハー・ジャパンは、アルコール系洗浄剤や離型油等の販売拡大を積極的に展開し、Suzumo International Corporation (SIC) は、新たに開設した米国ニュージャージー州の東部支店を含め、小型ロボットを中心に積極的な販売活動を行いました。また、Suzumo Singapore Corporation (SSC) は、他のアセアン地域を含む現地ユーザーとのパートナーシップを通じて積極的に高品質なサービスを展開いたしました。

このような結果、当第2四半期連結累計期間における売上高合計は46億79百万円(前年同期比12.1%増)となりました。また、利益につきましては、営業利益6億82百万円(前年同期比22.2%増)、経常利益6億82百万円(前年同期比21.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益3億11百万円(前年同期比9.1%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(米飯加工機械関連事業)

米飯加工機械関連事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は43億69百万円(前年同期比12.8%増)、営業利益は6億75百万円(前年同期比22.7%増)となりました。

(衛生資材関連事業)

衛生資材関連事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は3億9百万円(前年同期比3.2%増)、営業利益は6百万円(前年同期比11.3%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4億31百万円増加し108億39百万円となりました。これは主に、投資有価証券が74百万円、たな卸資産が25百万円減少した一方で、現金及び預金が5億74百万円増加したことなどによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ2億30百万円増加し19億60百万円となりました。これは主に、退職給付に係る負債が1億66百万円、賞与引当金が1億3百万円増加したことなどによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ2億1百万円増加し88億78百万円となりました。これは主に、利益剰余金が配当金の支払により90百万円減少したこと、および親会社株主に帰属する四半期純利益により3億11百万円増加したことなどによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ5億74百万円増加し、当第2四半期連結累計期間末には44億14百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額2億70百万円等による資金の減少はありましたが、税金等調整前四半期純利益5億39百万円、減価償却費1億25百万円、退職給付に係る負債の増加1億66百万円、賞与引当金の増加1億3百万円等による資金の増加により、7億15百万円の資金の増加(前年同四半期連結累計期間に比べ2億6百万円の増加)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の償還による収入1億円による資金の増加はありましたが、有形固定資産の取得1億円等による資金の減少により、6百万円の資金の減少(前年同四半期連結累計期間に比べ1億65百万円の増加)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額90百万円、リース債務の返済13百万円等による資金の減少により、1億4百万円の資金の減少(前年同四半期連結累計期間に比べ0百万円の減少)となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は36百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,060,000	6,060,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式 単元株式数は100株であります
計	6,060,000	6,060,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年9月30日	—	6,060	—	614	—	443

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
鈴木節子	東京都練馬区	1,675	27.64
鈴木美奈子	東京都練馬区	813	13.42
鈴木映子	東京都目黒区	813	13.42
鈴茂器工取引先持株会	東京都練馬区豊玉北2-23-2	271	4.48
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント(常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6-10-1)	170	2.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	164	2.71
立花証券株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1-13-14	162	2.67
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	120	1.98
平田邦治	愛知県名古屋市中天白区	110	1.82
株式会社みずほ銀行(常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区大手町1-5-5(東京都中央区晴海1-8-12)	96	1.58
計	—	4,394	72.52

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,032,000	60,320	—
単元未満株式	普通株式 25,500	—	—
発行済株式総数	6,060,000	—	—
総株主の議決権	—	60,320	—

(注) 上記「単元未満株式」には当社所有の自己株式21株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 鈴茂器工株式会社	東京都練馬区豊玉北 2-23-2	2,500	—	2,500	0.0
計	—	2,500	—	2,500	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、優成監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,840,174	4,414,828
受取手形及び売掛金	1,195,766	1,207,165
たな卸資産	※1 1,378,639	※1 1,352,767
繰延税金資産	90,172	88,314
その他	40,602	48,928
流動資産合計	6,545,354	7,112,003
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,683,735	1,647,237
土地	983,856	983,856
その他（純額）	230,018	217,522
有形固定資産合計	2,897,610	2,848,615
無形固定資産	110,760	108,667
投資その他の資産		
投資有価証券	508,154	434,092
繰延税金資産	149,840	142,806
その他	207,944	205,703
貸倒引当金	△11,895	△12,650
投資その他の資産合計	854,044	769,952
固定資産合計	3,862,416	3,727,235
資産合計	10,407,770	10,839,239
負債の部		
流動負債		
買掛金	393,322	405,232
未払法人税等	250,151	209,923
賞与引当金	144,564	247,866
その他	392,989	370,939
流動負債合計	1,181,028	1,233,962
固定負債		
繰延税金負債	1,809	1,543
役員退職慰労引当金	13,001	14,151
退職給付に係る負債	429,006	595,495
その他	105,394	115,160
固定負債合計	549,211	726,352
負債合計	1,730,239	1,960,314

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	614,508	614,508
資本剰余金	443,050	443,050
利益剰余金	7,543,253	7,764,248
自己株式	△2,586	△2,731
株主資本合計	8,598,224	8,819,075
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56,583	72,521
為替換算調整勘定	22,722	△12,671
その他の包括利益累計額合計	79,306	59,850
純資産合計	8,677,531	8,878,925
負債純資産合計	10,407,770	10,839,239

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	4,174,425	4,679,139
売上原価	2,263,139	2,461,808
売上総利益	1,911,286	2,217,331
販売費及び一般管理費	※ 1,353,108	※ 1,535,077
営業利益	558,178	682,254
営業外収益		
受取利息	1,461	1,692
受取配当金	1,294	2,339
為替差益	1,830	—
その他	2,094	2,112
営業外収益合計	6,681	6,144
営業外費用		
支払利息	33	—
手形売却損	19	24
売上割引	443	1,319
為替差損	—	4,178
その他	—	14
営業外費用合計	495	5,537
経常利益	564,363	682,861
特別損失		
退職給付費用	—	143,260
特別損失合計	—	143,260
税金等調整前四半期純利益	564,363	539,600
法人税等	221,264	227,741
四半期純利益	343,098	311,859
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	343,098	311,859

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	343,098	311,859
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,511	15,938
為替換算調整勘定	3,112	△35,394
その他の包括利益合計	△2,398	△19,456
四半期包括利益	340,699	292,403
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	340,699	292,403
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	564,363	539,600
減価償却費	118,128	125,607
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△197	754
賞与引当金の増減額 (△は減少)	100,780	103,302
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	14,530	166,489
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1,150	1,150
受取利息及び受取配当金	△2,755	△4,031
支払利息及び手形売却損	52	24
売上債権の増減額 (△は増加)	47,865	△15,769
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△48,283	14,181
仕入債務の増減額 (△は減少)	32,303	19,967
未払費用の増減額 (△は減少)	29,283	28,939
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△86,488	18,816
その他	△33,861	△17,977
小計	736,870	981,055
利息及び配当金の受取額	3,248	4,756
利息の支払額	△33	—
手形売却に伴う支払額	△19	△24
法人税等の支払額	△231,082	△270,668
営業活動によるキャッシュ・フロー	508,984	715,119
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△2,914	△2,964
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	100,000
有形固定資産の取得による支出	△145,132	△100,347
無形固定資産の取得による支出	△17,786	△5,198
貸付金の回収による収入	800	1,298
差入保証金の差入による支出	△7,733	△356
差入保証金の回収による収入	5,011	5,702
保険積立金の積立による支出	△4,419	△4,989
その他	—	195
投資活動によるキャッシュ・フロー	△172,175	△6,660
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△13,222	△13,670
配当金の支払額	△90,865	△90,863
その他	△41	△145
財務活動によるキャッシュ・フロー	△104,130	△104,679
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,791	△29,125
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	235,470	574,653
現金及び現金同等物の期首残高	3,480,237	3,840,174
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 3,715,707	※ 4,414,828

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用) 法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。 なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額は軽微であります。

(会計上の見積りの変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
(退職給付債務の計算方法に係る見積りの変更) 当社は、第1四半期連結会計期間より、退職給付債務の計算方法を簡便法から原則法に変更しております。この変更は、従業員数が増加したことに伴い、退職給付債務の金額の算定の精度を高め、退職給付費用の期間損益計算をより適正化するために行ったものであります。 この変更に伴い、当第2四半期連結累計期間の期首における退職給付に係る負債が143,260千円増加し、同額を特別損失として計上しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
商品及び製品	875,771千円	878,982千円
原材料及び貯蔵品	308,336 "	331,326 "
仕掛品	194,531 "	142,457 "

2 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	232,641千円	216,594千円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
従業員給料	439,294千円	515,512千円
法定福利費	102,605 "	118,976 "
賞与引当金繰入額	134,619 "	151,668 "
退職給付費用	13,271 "	16,100 "
役員退職慰労引当金繰入額	1,150 "	1,150 "
販売促進費	57,437 "	77,393 "
旅費交通費	93,762 "	91,308 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
現金及び預金	3,715,707千円	4,414,828千円
現金及び現金同等物	3,715,707千円	4,414,828千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	90,865	15	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	90,863	15	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	米飯加工機械 関連事業	衛生資材 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,874,310	300,115	4,174,425	—	4,174,425
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,874,310	300,115	4,174,425	—	4,174,425
セグメント利益	550,432	7,745	558,178	—	558,178

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	米飯加工機械 関連事業	衛生資材 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,369,357	309,782	4,679,139	—	4,679,139
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,369,357	309,782	4,679,139	—	4,679,139
セグメント利益	675,382	6,871	682,254	—	682,254

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	56円64銭	51円48銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	343,098	311,859
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	343,098	311,859
普通株式の期中平均株式数(株)	6,057,676	6,057,559

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月9日

鈴茂器工株式会社
取締役会 御中

優成監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 渡邊 芳樹 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 宮崎 哲 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている鈴茂器工株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、鈴茂器工株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。